

第 11 章 緑視率調査

1 . 緑視率調査の方法

緑視とは人の目に映る緑の量で、立面的な視野内に占める緑量の割合を緑視率という。人間の緑に対する満足度、意識量の把握手段として用いられ、人間の普通の視野の範囲で撮影した写真等を用い、その中に占める樹木等の緑の面積占有率を集計した。

本調査では、平成 14 年度に調査を行った 70 地点について調査を行った。調査方法は、各地点において図 11-1 に示したとおり、交差点の各方向を人の視野に近い範囲で写真撮影し、各写真内に占めるみどりの割合を視点数で平均して緑視率を求めた。

また、前回と比較を行うため、できるだけ同じ範囲が入るようにデジタルカメラで撮影し、画角の統一を図った。撮影を実施した地点は図 11-3 のとおりである。

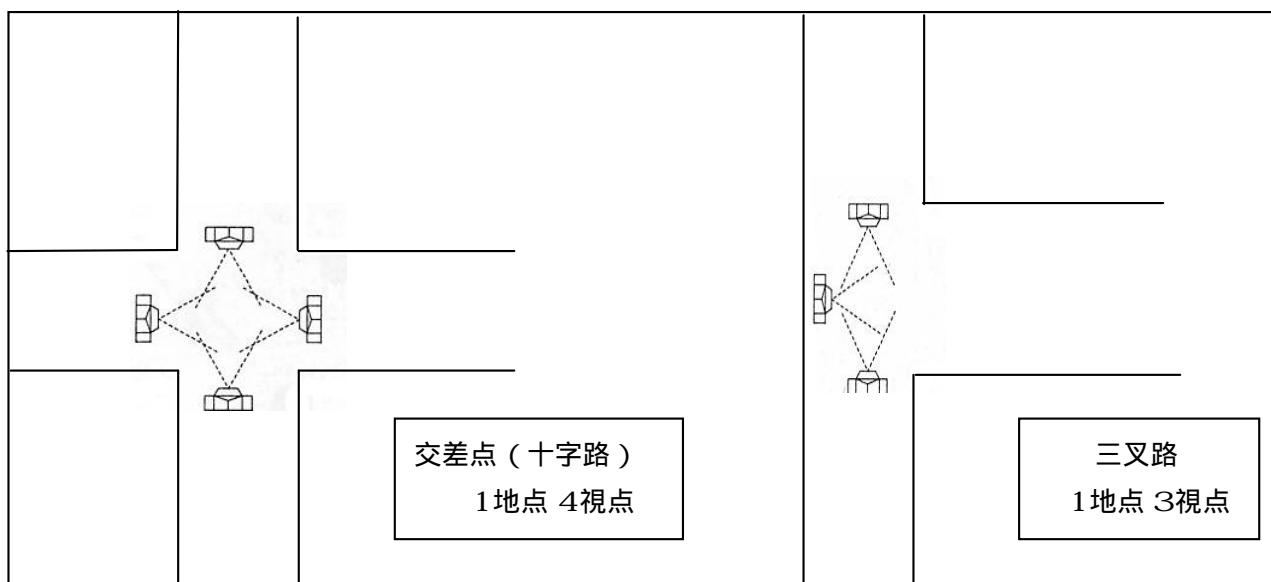
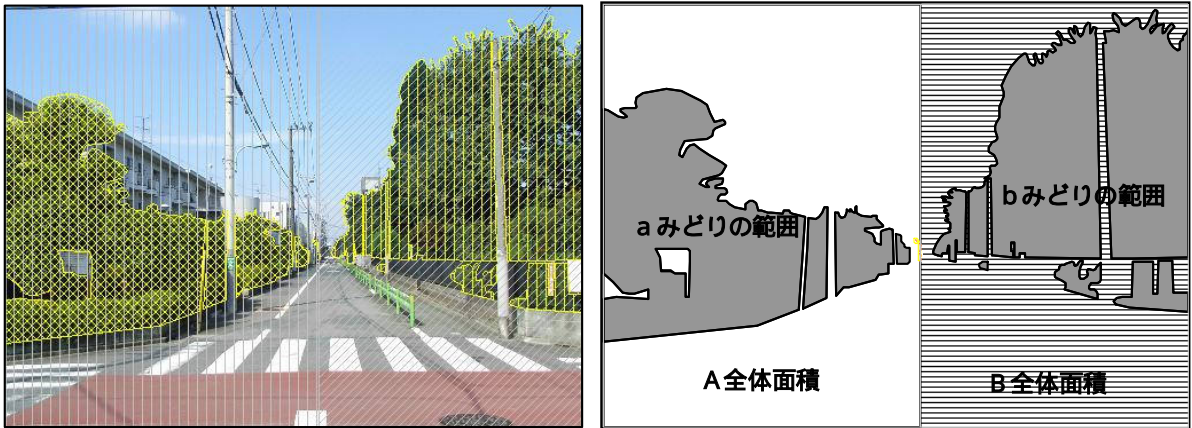


図 11-1 写真撮影方向

緑視率の計測方法は前回の計測方法を踏襲して、撮影した写真から前回調査と同様の測定範囲を抽出し、測定範囲を左右に分割して左右それぞれの写真範囲と緑の範囲を計測して緑視率を求めた。

$$\text{緑視率(\%)} = \frac{(\text{左側の緑の範囲面積} + \text{右側の緑の範囲面積})}{(\text{左側の写真面積} + \text{右側の写真面積})} \times 100$$



$$\text{一方向からの緑視率(\%)} = (a + b) \div (A + B) \times 100$$

図 11-2 緑視率の測定方法

2 . 緑視率調査の結果

緑視率調査結果より区全体 70 箇所の平均緑視率は 20.79%であった。

各ゾーンにおいて 5 箇所の代表点を選んでいるため、単純なゾーン別の比較はできないが、緑被率が最も高い成田ゾーンが平均緑視率も 33.75%と最も高い結果であった。

表 11-1 ゾーン別緑視率

ゾーン名	平均緑視率(%)
上井草	25.56
下井草	14.39
西荻北	16.31
西荻南	12.60
荻窪北	13.20
荻窪南	28.00
阿佐谷	19.33
成田	33.75
高円寺	16.84
和田・堀ノ内	23.60
高井戸西	17.34
高井戸東	26.43
永福	21.58
方南・和泉	22.14
区全体	20.79

阿佐谷ゾーン、高円寺ゾーンは緑被率の低いゾーンであるが、下記の地点は緑視率の高い事例である。7-3-1 は一般的な住宅地であるが接道部の緑化によって緑視率が高く、特に接道部沿いの高木植栽による影響が大きい。9-2-2 は緑道の施設植栽と民有地の高木植栽によって緑視率が高い事例である。



7-3-1 阿佐谷北五丁目 緑視率 32.88%



9-2-2 高円寺南三丁目 緑視率 46.28%

次は商業地域の事例である。11-3-1 は緑化余地がほとんどないため、緑視率が非常に低い事例である。一方 12-2-4 は緑化余地は少ないが、交差点にある高木植栽によって緑視率が高くなった事例である。緑化余地が少ない商業地域は効果的な緑化によって緑視率を上げることができる。



11-3-1 久我山二丁目 緑視率 3.46%



12-2-4 浜田山三丁目 緑視率 14.02%

次に住宅地の事例を示す。道路植栽や生垣等の接道部緑化が両側に整備されており、屋敷林などの高木もあることから良好な緑視の環境となっている。



13-2-2 永福三丁目 緑視率 28.92%

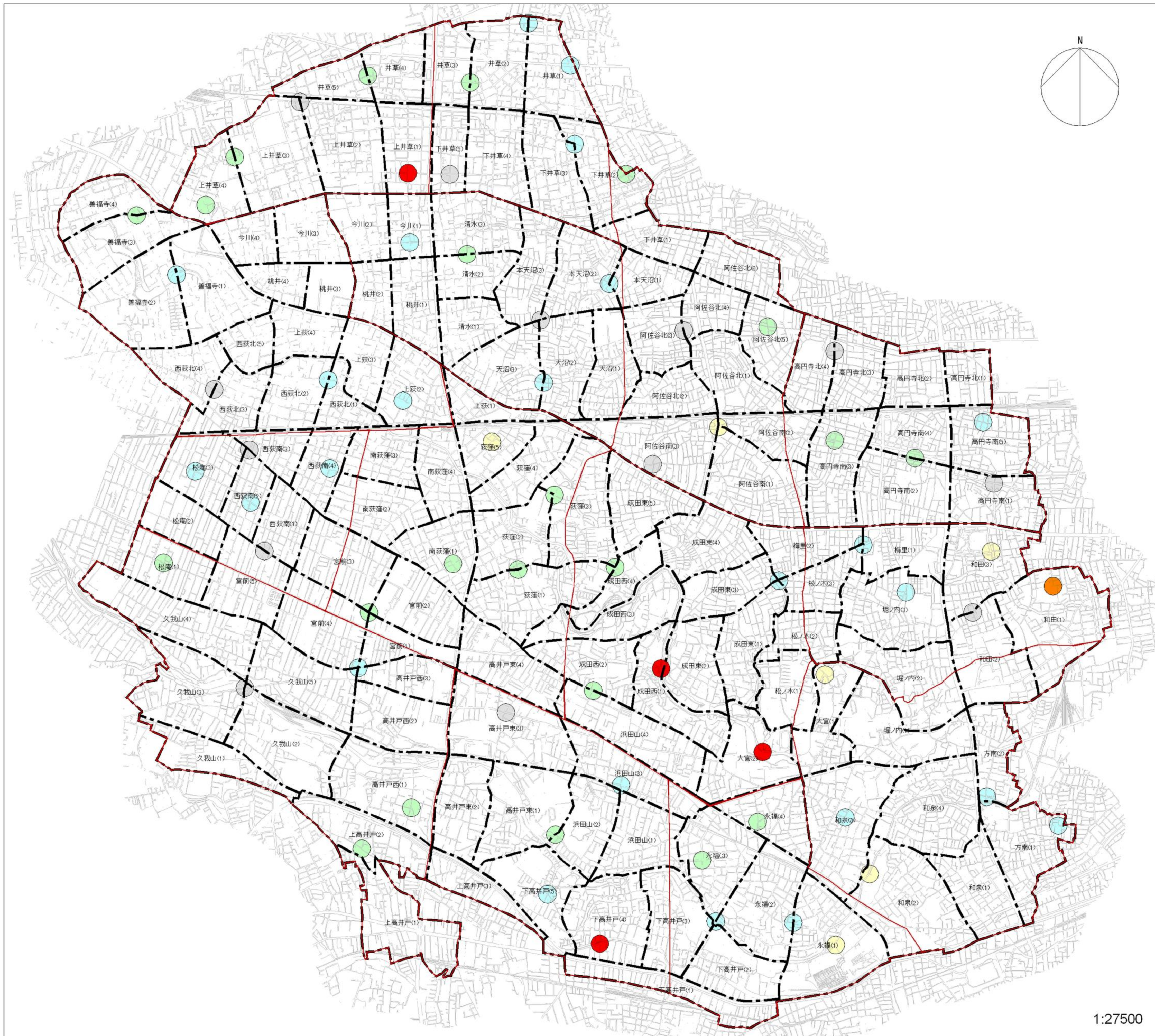


1-4-3 上井草四丁目 緑視率 37.65%

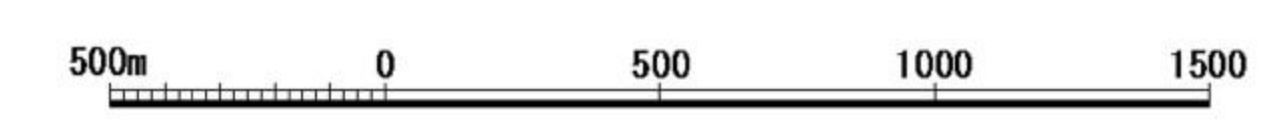
表 11-2 地点別緑視率

ゾーン名	地点番号	地点平均緑視率(%)
上井草	1-1	22.09
上井草	1-2	1.14
上井草	1-3	22.59
上井草	1-4	27.84
上井草	1-5	54.14
下井草	2-1	11.61
下井草	2-2	25.65
下井草	2-3	7.76
下井草	2-4	12.63
下井草	2-5	14.29
西荻北	3-1	29.63
西荻北	3-2	17.94
西荻北	3-3	5.10
西荻北	3-4	14.42
西荻北	3-5	14.47
西荻南	4-1	18.57
西荻南	4-2	0.60
西荻南	4-3	14.85
西荻南	4-4	19.12
西荻南	4-5	9.86
荻窪北	5-1	13.29
荻窪北	5-2	20.91
荻窪北	5-3	13.05
荻窪北	5-4	5.21
荻窪北	5-5	13.56
荻窪南	6-1	33.63
荻窪南	6-2	28.63
荻窪南	6-3	21.02
荻窪南	6-4	26.83
荻窪南	6-5	29.89
阿佐谷	7-1	27.19
阿佐谷	7-2	7.19
阿佐谷	7-3	21.45
阿佐谷	7-4	33.24
阿佐谷	7-5	7.60
成田	8-1	28.04
成田	8-2	14.35
成田	8-3	21.80
成田	8-4	52.29
成田	8-5	52.28

ゾーン名	地点番号	地点平均緑視率(%)
高円寺	9-1	7.98
高円寺	9-2	25.23
高円寺	9-3	26.49
高円寺	9-4	19.80
高円寺	9-5	4.70
和田・堀ノ内	10-1	18.47
和田・堀ノ内	10-2	13.13
和田・堀ノ内	10-3	3.97
和田・堀ノ内	10-4	44.99
和田・堀ノ内	10-5	37.43
高井戸西	11-1	23.28
高井戸西	11-2	10.70
高井戸西	11-3	2.28
高井戸西	11-4	22.84
高井戸西	11-5	27.58
高井戸東	12-1	6.34
高井戸東	12-2	12.65
高井戸東	12-3	23.41
高井戸東	12-4	15.41
高井戸東	12-5	74.35
永福	13-1	20.52
永福	13-2	20.30
永福	13-3	18.01
永福	13-4	18.90
永福	13-5	30.16
方南・和泉	14-1	30.35
方南・和泉	14-2	16.05
方南・和泉	14-3	15.19
方南・和泉	14-4	31.99
方南・和泉	14-5	17.10
区平均		20.79



ゾーン区分図



1:27500

図11-3 緑視率状況図

3. 緑視率の推移

平成 14 年調査の区全体の平均緑視率は 22.53% で、今回は 20.79% であった。

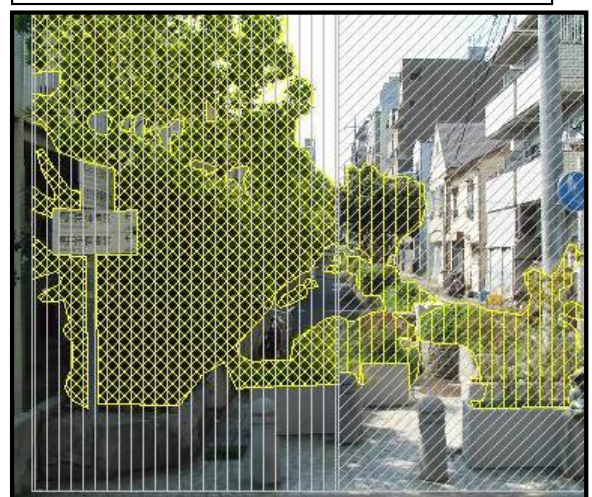
平均緑視率は減少しているが、調査地点ごとに比較を行うと 26 地点では変化がなかった。他の地点では新たな植栽が行われた箇所が 1 地点、樹木の生長が確認できたのは 8 地点、その他の地点では生垣の撤去、建て替えに伴う樹木の減少、強剪定等により緑視率が減少していた。また、ビルの新築によって前回調査では見えていた高木が見えなくなった事例もあった。

通常人が目にするみどりは住宅地等の民有地のみどりであり、樹木の伐採がなければ緑視率は大きく変化しない。そのため建て替え等の機会に、接道部の緑化を指導することで良好な緑視環境の維持・向上が図られる。

平成 14 年 9-3-2 緑視率 23.60%



平成 19 年 9-3-2 緑視率 26.49%



植栽ますが増えたことによって緑視率が上がった

平成 14 年 14-1-2 緑視率 25.77%



平成 19 年 14-1-2 緑視率 30.35%



樹木の増加と生長によって緑視率が上がった

平成 14 年 6-4-4 緑視率 43.02%



平成 19 年 6-4-4 緑視率 26.83%



住宅の建て替えに伴う植栽の減少と樹木の伐採によって緑視率が下がった。

平成 14 年 9-1-4 緑視率 14.83%



平成 19 年 9-1-4 緑視率 7.98%



庭木の減少によって緑視率が下がった。